

# 平成24年度 病害虫発生予察情報 予報第7号

平成 24 年 8 月 1 日  
 広島県東部農業技術指導所

## 1 発生予察情報

### (1) 水稲（7月下旬調査）

病害虫名	発生量（平年比）		防除上の注意事項
	現況	予想*1	
葉いもち	【南部】 多	【南部】 やや多	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉いもちが上位葉に病斑が発生しているほ場では、穂ばらみ期の防除を徹底する。</li> <li>・出穂前後に曇雨天が予想される場合は、穂ばらみ期及び穂揃い期の防除を徹底する。</li> </ul>
穂いもち	【中部】 —	【中部】 並	
紋枯病 （中生品種）	【県東部】 少	少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・穂ばらみ期における要防除水準は、発病株率が中生種では20%以上である。</li> <li>・本病は畦際での発生が多い傾向がある。要防除の判断にあたっては、ほ場内部を含め調査する。</li> <li>・穂ばらみ期が高温多湿で経過すると病斑の上位進展が進み、被害程度が大きくなるので、注意する。</li> <li>・前年多発したほ場では、発生が多くなる傾向があるので注意する。</li> </ul>
セジロウンカ （中生品種）	【県東部】 やや多	多	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼虫発生盛期は、南部で8月第3半旬～第4半旬、中部で8月第4半旬～第5半旬と予想される。</li> <li>・幼穂形成期から穂ばらみ期に、10頭/株以上の発生が見られる場合には防除を行う。</li> </ul>
コブノメイガ	【南部】 少 （発生なし）	少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害葉の発生状況については、ほ場間格差が大きいので、8月上旬におけるほ場での発生状況を確認して防除する。</li> <li>・中生品種では、8月上旬の被害株率が20%を越える場合には、防除を行う。早生品種においても8月上旬に出穂するほ場では注意する。</li> <li>・葉色の濃いイネに被害が集中する傾向があるため、過度の窒素肥料の施用を控える。</li> </ul>
斑点米 カメムシ類 （早生品種）	【南部】 やや少	【南部】 やや少	<p>【耕種的防除】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畦畔等に出穂した雑草が繁茂している場合、水稲の出穂期近くになってからの除草は、斑点米カメムシ類のエサ場を少なくし、逆にカメムシを水田内に追い込むことになるため、水稲出穂間際の除草は控える。</li> </ul> <p>【農薬による防除】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生状況については、ほ場間格差が大きいので、ほ場での発生状況を確認して防除する。</li> <li>・カスミカメムシ類が主体の場合の防除時期は、出穂期及びその10日後の間で計2回。</li> <li>・ホソハリカメムシ等の加害種が主体の場合は、出穂7日後～14日後の間で計2回防除する。なお、2回の防除実施後も本田で発生が散見される場合は、収穫期近くまで加害するので、追加防除を行う。</li> </ul>
	【中部】 やや少	【中部】 やや少	

病害虫名	発生量（平年比）		防除上の注意事項										
	現況	予想*1											
斑点米カメムシ類 （早生品種） （つづき）	【南部】 やや少	【南部】 やや少	<p>【農薬による防除】（つづき）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺田に比べ出穂の早いほ場や山際ほ場、また畦畔等の雑草管理が不徹底なほ場では、斑点米カメムシ類の発生が多くなるので、発生状況に注意する。</li> </ul> <p>【要防除密度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳熟期の本田すくい取り調査による要防除の判断は下表を目安とする。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">着色粒混入率</th> <th colspan="2">要防除密度の目安*</th> </tr> <tr> <th>カスミカメムシ類</th> <th>ホソハリカメムシ類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2等以下への格下げ</td> <td>0.1%以上</td> <td>4頭以上</td> <td>2頭以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>※捕虫網による20回振りすくい取り</p>	項目	着色粒混入率	要防除密度の目安*		カスミカメムシ類	ホソハリカメムシ類	2等以下への格下げ	0.1%以上	4頭以上	2頭以上
	項目	着色粒混入率				要防除密度の目安*							
カスミカメムシ類			ホソハリカメムシ類										
2等以下への格下げ	0.1%以上	4頭以上	2頭以上										
	【中部】 やや少	【中部】 やや少											

\*1 予想は、次回予報時期（8月上旬）までの予想発生量を示す。

## (2) 果樹全般（7月中旬調査）

■ 平成24年7月18日付けで、県内全域に果樹カメムシ類の注意報が発表されています。詳細は、広島県HPに掲載の「平成24年度病害虫発生予察情報注意報第1号」を参照してください。

(<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/84/24yosatsujyouhouitiran.html>)

■ 適用地域：県東部

病害虫名	発生量（平年比）		備考
	現況	予想	
チャバネアオカメムシ	やや多	多	予想は、次回予報時期（8月上旬）までの予想発生量を示す。

## 2 その他病害虫の発生状況

作物名	病害虫名	現況
水稲 （県東部）	フタオビコヤガ （イネアオムシ）	やや少
	ヒメトビウンカ	やや多
	トビイロウンカ	並（発生なし）

## 3 予報の根拠

### (1) 水稲（7月下旬調査）

#### ア. いもち病

##### (ア) 葉いもちの巡回調査結果

南部では平年に比べ多い発生、中部では平年並の発生であった。地域によっては、葉いもち病斑の上位葉への発生が散見されるほ場が確認されている。

##### (イ) BLASTAMによる好適感染日

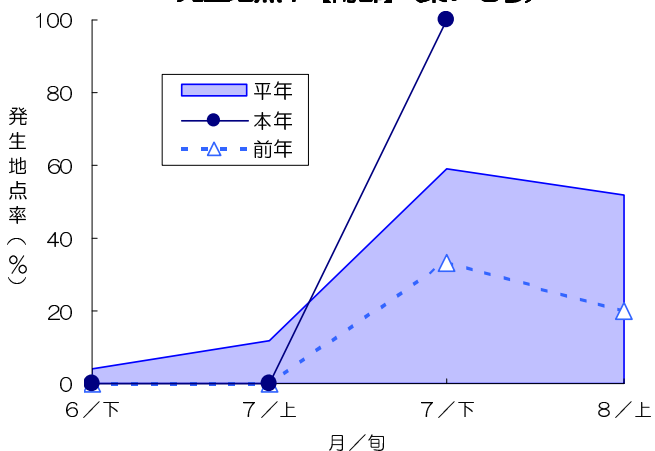
南部では、7月第3半旬に好適感染日が出現している。中部では、7月第3半旬及び第5半旬に好適感染日が出現している。

(ウ) 今後の気象

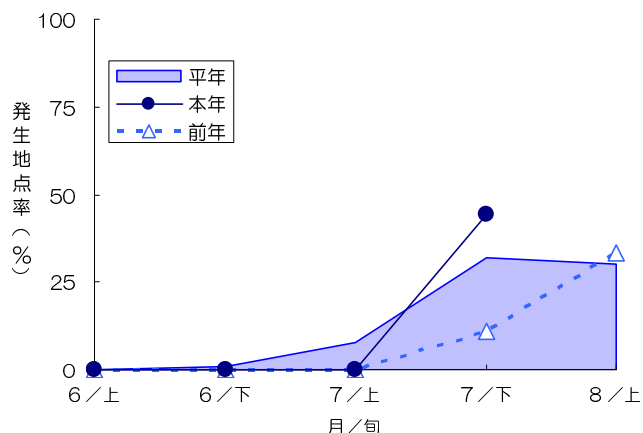
向こう一か月の気温は、高い確率が50%で、平年に比べ晴れの日が多いと予想されており、いもち病の発生に不適である。

(エ) 調査結果の具体的数値 (グラフ)

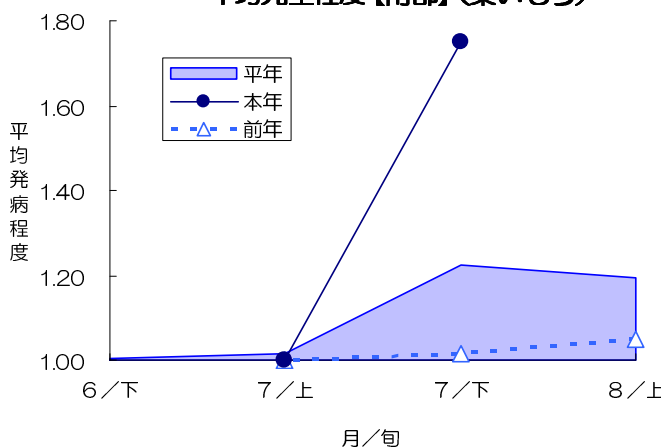
発生地点率【南部】(葉いもち)



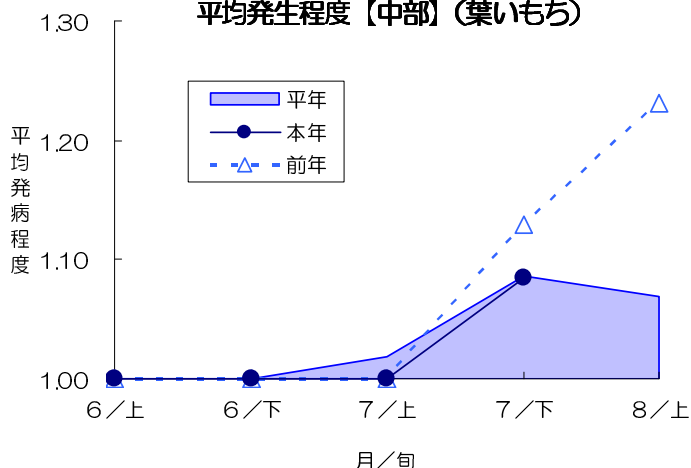
発生地点率【中部】(葉いもち)



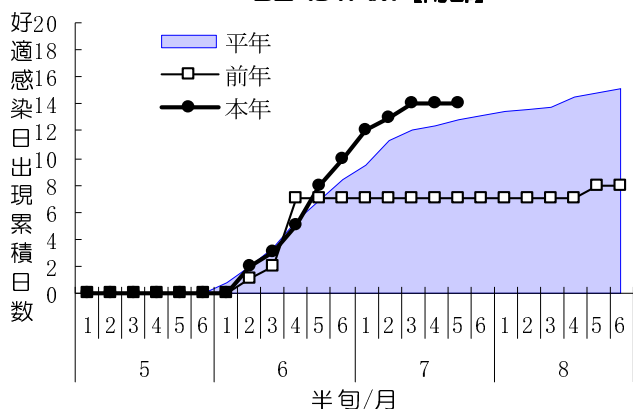
平均発生程度【南部】(葉いもち)



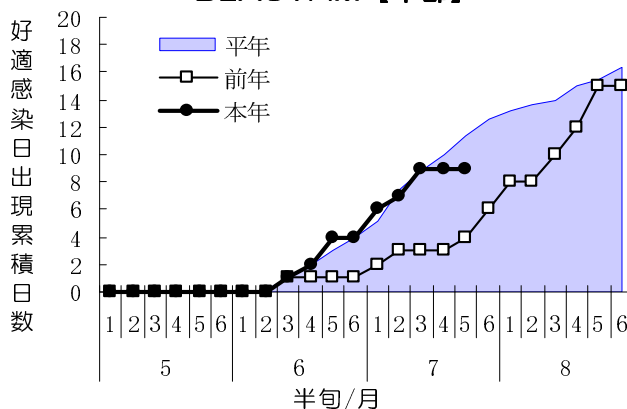
平均発生程度【中部】(葉いもち)



BLASTAM【南部】



BLASTAM【中部】



イ. 紋枯病 (中生品種)

(ア) 巡回調査結果

南部、中部ともに平年に比べ少ない発生であった。

(イ) 予察田調査結果

福山市津之郷町の予察田における7月第6半旬の調査で、下位葉鞘に発生を確認した。

(ウ) 今後の気象

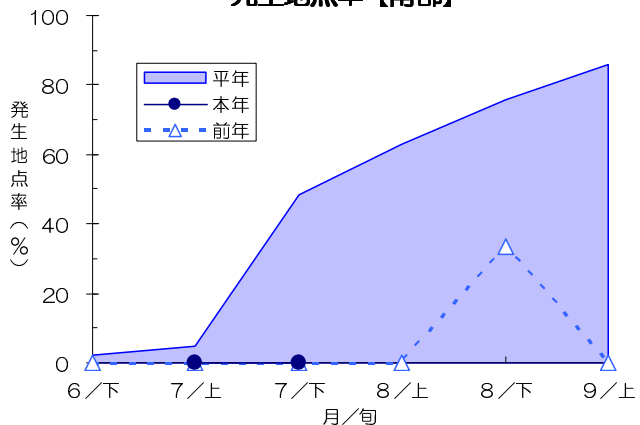
向こう1か月の気温は、高い確率が50%で、向こう1か月の降水量は、少ない確率が50%と予想されている。

(工) 水稻生育状況

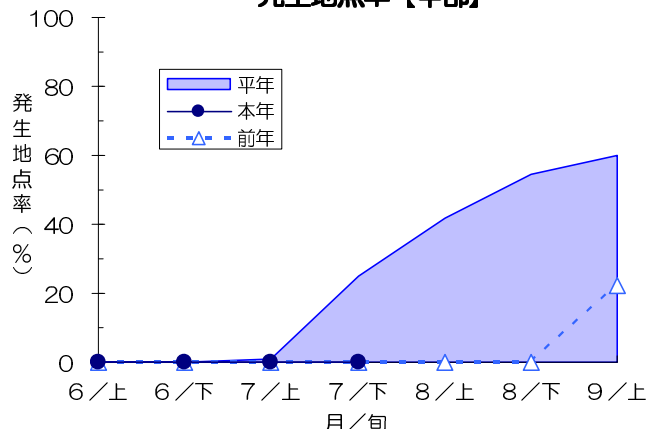
茎数は、平年に比べやや少なく推移しており、紋枯病の発生にやや不適である。

(オ) 調査結果の具体的数値 (グラフ)

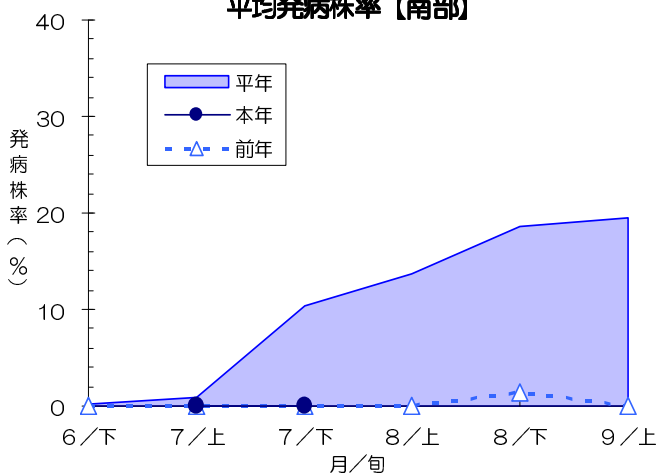
発生地点率【南部】



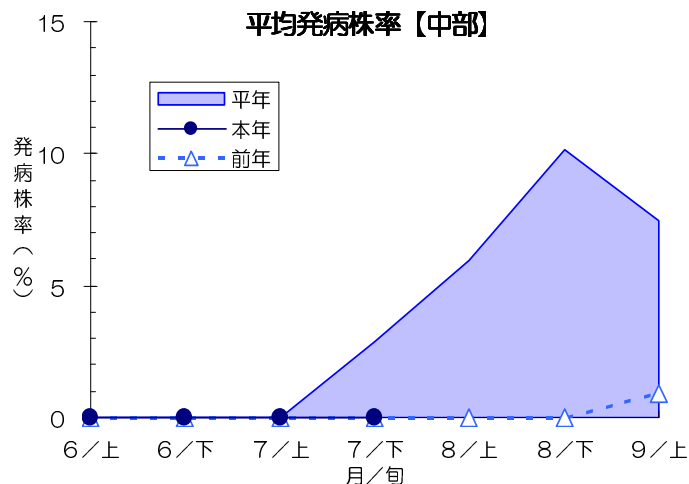
発生地点率【中部】



平均発病株率【南部】



平均発病株率【中部】



ウ. セジロウカ (中生品種)

(ア) 巡回調査結果

県東部では、平年に比べやや多い発生であった。

(イ) 予察灯調査

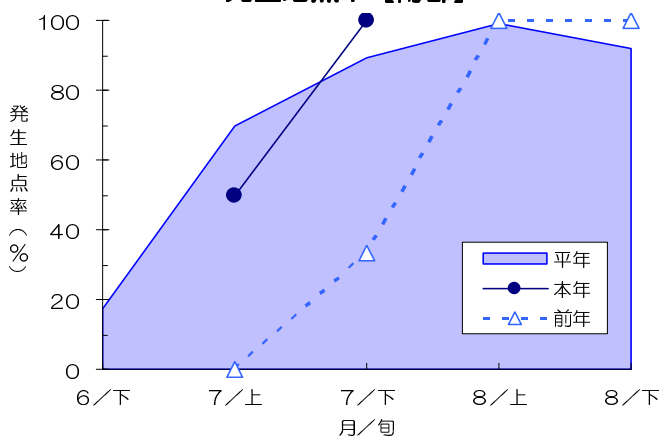
福山市駅家町の予察灯における6月第1半旬～7月第5半旬の累積誘殺数は24頭で、平年(平年71.2頭)に比べやや少なく推移している。

(ウ) 今後の気象

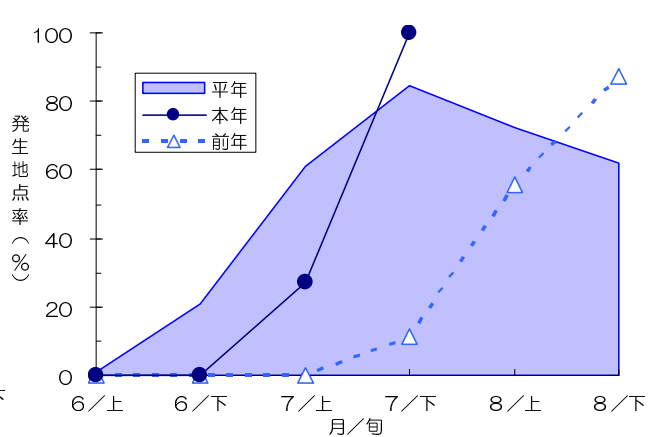
向こう1か月の気温は、高い確率が50%と予想されている。

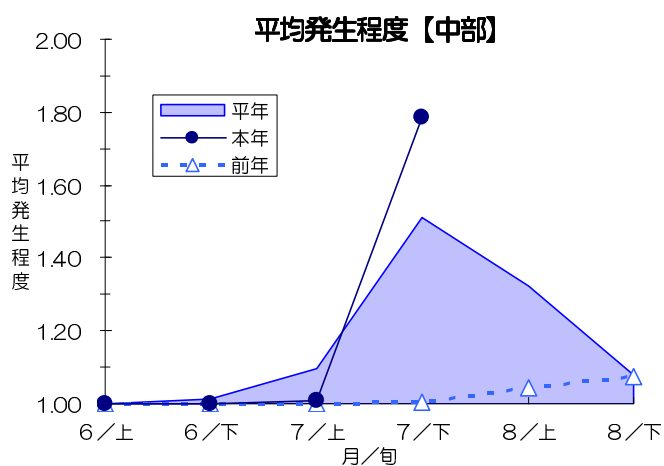
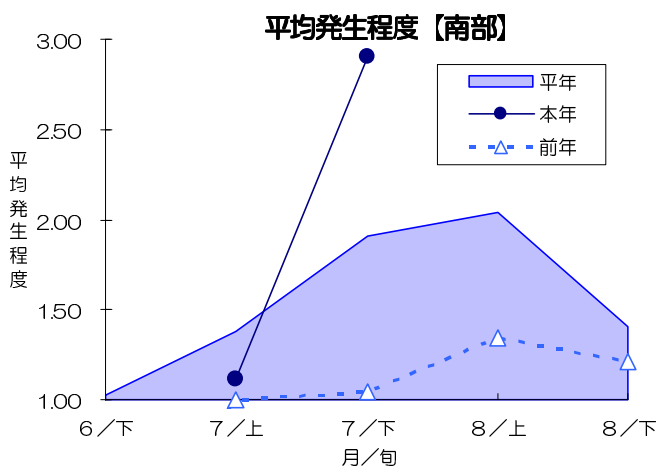
(エ) 調査結果の具体的数値 (グラフ)

発生地点率【南部】



発生地点率【中部】





## エ. コブノメイガ【南部】

### (ア) 巡回調査結果

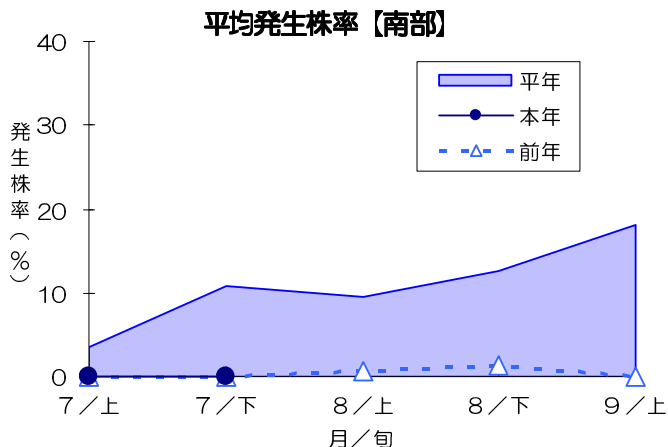
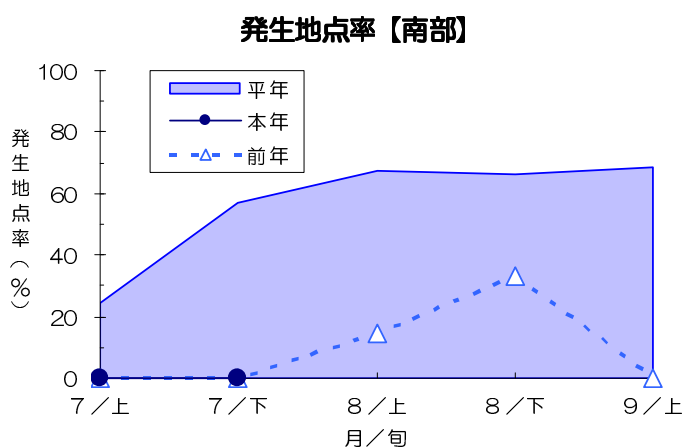
平年に比べ少ない発生であった（発生なし）。

南部では、福山市津之郷町の予察田など巡回調査地点外のほ場において、7月第6半旬にコブノメイガの被害が確認されている。

### (イ) 今後の気象

向こう1か月の気温は、高い確率が50%と予想されており、コブノメイガの発生に好適である。

### (ウ) 調査結果の具体的な数値（グラフ）



## オ. 斑点米カメムシ類

### (ア) 牧草地すくい取り調査結果（7月上旬調査）

カスミカメムシ類、ホソハリカメムシ等その他加害種ともに平年に比べやや少ない発生であった。

斑点米カメムシ類総合計では、平年に比べやや少ない発生であった。

### (イ) 本田すくい取り調査結果

#### a 7月中旬調査【早期コシヒカリ】（南部）

過去4年間に比べ、斑点米カメムシ類虫数は中位の発生であった。

カスミカメムシ類	3.9頭	（過去4年平均値 6.4頭）
ホソハリカメムシ等その他加害種	3.4頭	（過去4年平均値 3.7頭）
要防除ほ場率	85.7%	（過去4年平均値 85.5%）

b 7月下旬調査【極早生品種】

(a) 南部地帯

カスミカメムシ類、ホソハリカメムシ等その他加害種ともに、平年に比べやや少ない発生であった。

要防除ほ場率は50.0%で、平年に比べやや少なかった。

(b) 中部地帯

カスミカメムシ類は、平年\*2並の発生であった。

ホソハリカメムシ等その他加害種は、平年\*2に比べ少ない発生であった。

要防除ほ場率は60.0%で平年\*2並であった。

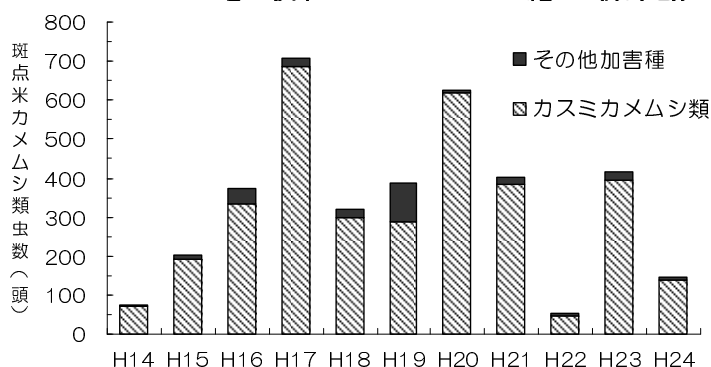
\*2 平年は、平成15年を除く過去9年のデータ比較による。

(ウ) 今後の気象

向こう1か月の気温は、高い確率が50%と予想されており、斑点米カメムシ類の発生に好適である。

(エ) 調査結果の具体的数値 (グラフ)

7月上旬・牧草地すくい取り調査結果 (県東部)

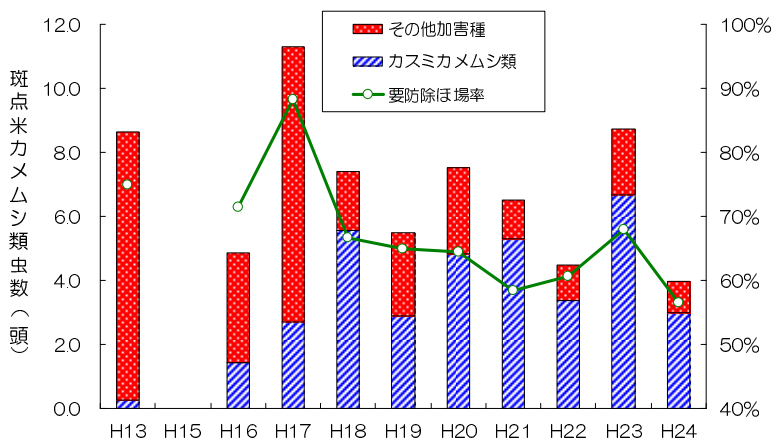


■カスミカメムシ類  
138.6頭 (平年 331.6頭)

■ホソハリカメムシ等その他加害種  
7.6頭 (平年 24.8頭)

※虫数は、捕虫網による20回振りすくい取りによる

7月下旬・本田 (極早生品種) すくい取り調査結果 (県東部)



■カスミカメムシ類  
3.0頭 (平年 3.9頭)

■ホソハリカメムシ等その他加害種  
1.0頭 (平年 3.2頭)

■要防除ほ場率  
56.5% (平年 68.9%)

※虫数は、捕虫網による20回振りすくい取りによる

(2) 果樹カメムシ類

チャバネアオカメムシ (県東部)

ア. フェロモントラップ

(ア) 現地なしほ場 (世羅町本郷)

7月第6半旬までの累積誘殺頭数は、注意報を発表した平成12年、平成14年、平成16年、平成22年と同様に多発年傾向を示している。7月5半旬～6半旬に誘殺頭数は減少したが、平成12年、平成16年、平成22年では7月下旬にいったん減少して再び増加に転じたので、今後も発生に注意が必要である。

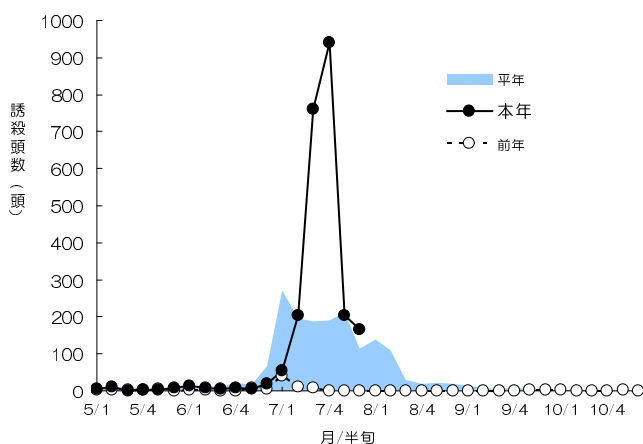
〔累積誘殺虫数 2424.2頭(平年 1364.4頭 平成12年 3052.0頭 平成14年 3214.4頭 平成16年 7511.7頭 平成22年 1428.0頭)〕

(イ) 現地ももほ場(福山市神辺町)

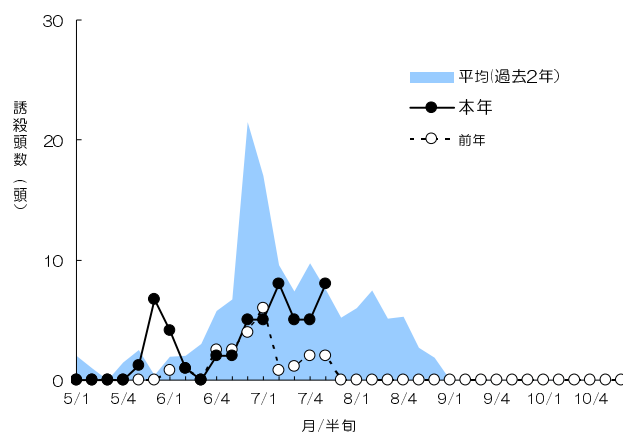
7月第6半旬までの累積誘殺頭数は、前年に比べ多く推移している。

〔累積誘殺虫数 62.2頭(前年 22.8頭)〕

イ. 調査結果の具体的数値(グラフ)



フェロモントラップ調査(世羅町本郷)



フェロモントラップ調査(福山市神辺町)

(3) その他病害虫の巡回調査等結果

作物名	病害虫名	地点率 (平年値)	発生率等 (平年値)	特記事項
水 稻 (県東部)	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	35.7% (69.4%)	被害株率 4.0% (18.7%)	
	ヒメトビウンカ	78.6% (70.2%)	発生程度 1.23 (1.15)	
	トビイロウンカ	0% (0.4%)	発生程度 1.00 (1.00)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月12日に福山市駅家町の予察灯で初飛来(1頭)を確認し、過去10年間で3番目に早い飛来であった。また、7月16日(1頭)及び17日(2頭)に飛来を確認した。</li> <li>・福山市津之郷町の予察田調査において発生は確認されていない。</li> <li>・巡回調査で発生は確認されていない。</li> </ul>

## 4 気象情報

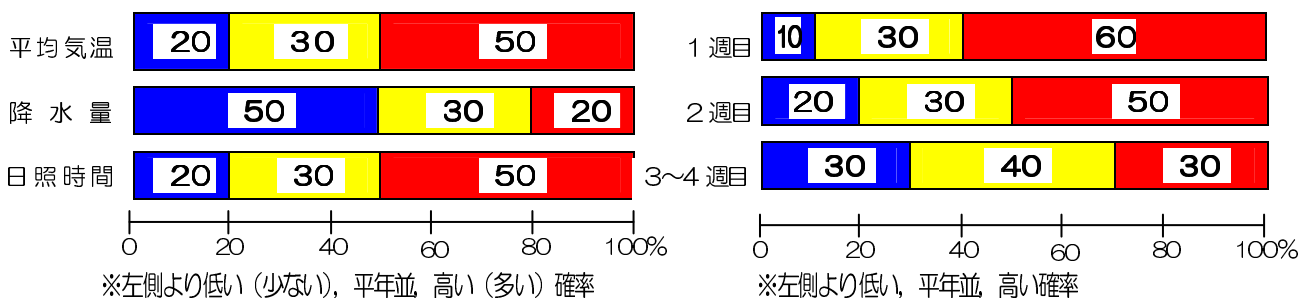
### ■ 中国地方1か月予報（7月28日から8月27日）【広島地方気象台7月27日発表】

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は少ない確率50%です。日照時間は、多い確率50%です。

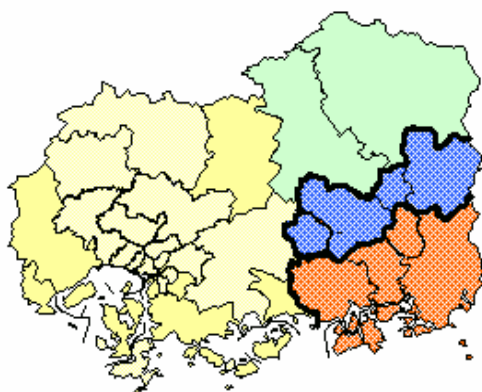
□向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率(%)

□向こう1か月の気温経過の各階級の確率(%)



## 5 情報にかかる用語説明等

### (1) 地帯区分



地帯区分		該 当 市 町
県東部	中部	三原市久井町, 三原市大和町, 世羅町, 府中市上下町, 神石高原町
	南部	三原市(久井町, 大和町を除く), 尾道市, 福山市, 府中市(上下町を除く)

■ 東部農業技術指導所管内【中部地帯】

■ 東部農業技術指導所管内【南部地帯】

### (2) 平 年 値

過去10年間(平成14年~平成23年)の平均値です。

### (3) 予想発生量・現況

原則として過去10年の数値をもとに気象予報等を参考にして、本年の発生量がどの程度かによって次の5階級に区分して予報しています。

- 多 … 予想発生量が過去10年の最大値と同程度の場合を表します。
- やや多 … 予想発生量が過去10年の2~3番目に多い値と同程度の場合を表します。
- 並 … 予想発生量が過去10年の4~7番目に多い値と同程度の場合を表します。
- やや少 … 予想発生量が過去10年の2~3番目に少ない値と同程度の場合を表します。
- 少 … 予想発生量が過去10年の最小値と同程度の場合を表します。

予想発生量	多	やや多		並			やや少		少	
過去10年間の値(多い順)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

なお、現況欄についても予想発生量と同様の方法によって現時点の発生状況を5階級に区分し、表記しています。



**(4) 平均発生（発病）程度【水稲いもち病、ウンカ類】**

平均発生（発病）程度 1.00 は、発生（発病）が無かったことを示します。数値が高くなるほど発生（発病）株が多くなり、株ごとの発生（発病）程度が甚だしくなります。

**(5) BLASTAM<sup>フラスターム</sup>（いもち感染好適日判定モデル）**

BLASTAMは、いもち病の発生時期を予測するシステムです。

いもち病の感染には、適当な気温と葉面が一定時間以上濡れていることが必要です。

BLASTAMでは、アメダスのデータ（気温、降水量、日照時間、風速）を用い、いもち病の感染に好適な気象条件が成立したか否かを推定しています。

感染好適日の出現累積日数が多くなるほど、いもち病の発生しやすい気象条件にあることを示します。

**7 その他の情報**

**(1) 農薬危害防止運動の実施について**

広島県では6月1日から8月31日までの3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。

農薬を使用する際は、使用基準を遵守すると共に周辺環境に注意し、ミツバチなどに被害が発生しないよう飛散防止に努めましょう。

また、農薬は鍵のかかる場所へ保管するなど、農薬による危害防止に努めてください。

なお、平成24年度農薬危害防止講習会は、全て終了しました。たくさんの御参加をいただき、ありがとうございました。

**(2) 各種情報提供**

■病害虫発生予察情報について

病害虫発生予察調査データ（フェロモントラップ及び巡回調査データ）や広島県病害虫・雑草防除基準が掲載されています。適切な病害虫防除に活用してください。

掲載場所：広島県HP「病害虫防除」

[\(トップページ\)](#) > [分類でさがす](#) > [しごと・産業](#) > [農林水産業](#) > [農業](#) > 病害虫防除

【アドレス】 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/84/byougaicyuuboujyo.html>

■テレホンサービス

農業技術指導所（病害虫防除所）では、病害虫の発生状況をできるだけ速やかにお知らせするため、テレホンサービスを行っています。

気象条件により発生が大きく左右される病害虫や、ウンカ等の長距離移動性害虫の飛来状況などの情報収集に役立ててください。

地域	電話番号	対象市町
尾三・福山	082-429-3032	三原市, 尾道市, 福山市, 府中市, 神石高原町, 世羅町

■メールマガジン「ひろしま県 病害虫情報お知らせメール」の配信について

広島県では、携帯電話等のメール機能を活用した農作物病害虫等の情報配布サービスを行っています。広島県HP「病害虫防除」に記載の手順で登録していただき、現場指導等に活用してください。なお、詳しい内容は、広島県HP内の「病害虫防除」で確認してください（上記参照）。

掲載場所：広島県HP「ひろしま県病害虫情報お知らせメールの配信について」

[\(トップページ\)](#) > [分類でさがす](#) > [しごと・産業](#) > [農林水産業](#) > [農業](#) > 病害虫発生予察情報

【アドレス】 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/40948.pdf>

**(3) 次回予察情報の発表予定**

次回の病害虫発生予察情報（予報第8号）の発表予定は、8月上旬です。対象は、水稲、かんきつ、果樹カメムシ類です。

(4) 今回の病害虫発生予察情報に関するお問合せ先

東部農業技術指導所 病害虫防除チーム（東部病害虫防除所）

【福山市三吉町一丁目1-1、電話084-921-1311（内線3810・3811）】

7 斑点米カメムシ類の耕種的防除方法

斑点米カメムシ類はイネ科植物の子実を好適な餌としており、畦畔のイネ科雑草やイタリアンライグラスなどの牧草地で増殖し、水稻出穂後、本田に飛び込みイネの子実を吸汁し、斑点米被害を及ぼす。

本田における斑点米カメムシ類の被害を軽減するためには、水稻出穂期前後の数週間、水田周辺にイネ科雑草が出穂しないような管理を行うことによって、斑点米カメムシ類が寄り付きにくい環境をつくることが重要である。

下図のように水稻出穂2～3週間前と水稻出穂直前の2回、畦畔の草刈を実施することによって畦畔のイネ科雑草の出穂が長期間抑制され、水稻の斑点米カメムシ類の被害を軽減することができる。

なお、1回のみしか草刈を実施しない場合には、水稻出穂2週間前までには草刈を終える。

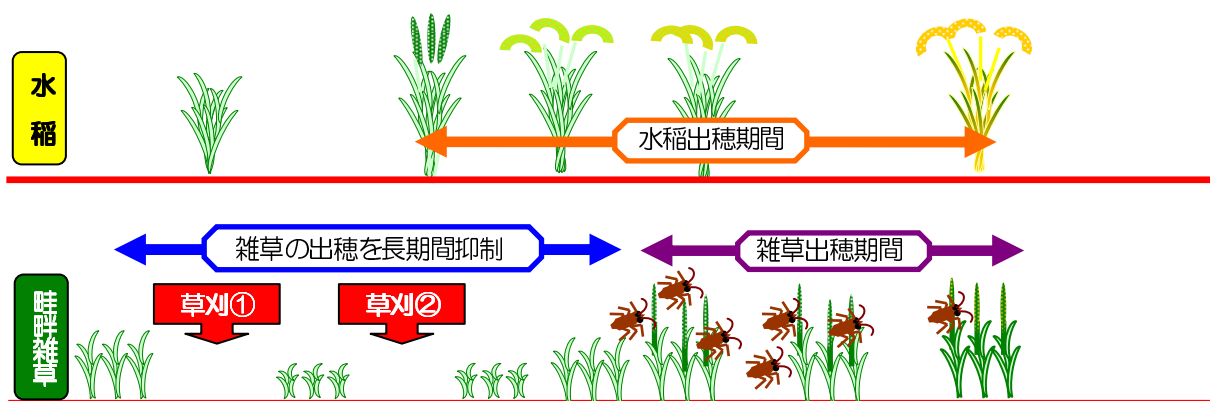


図 畦畔管理の改善による斑点米被害軽減対策イメージ図

※草刈①：水稻出穂2～3週間前に実施，草刈②：水稻出穂直前に実施

広島県における斑点米カメムシ類の主要種は、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ類などです。

<p style="text-align: center;"><b>アカスジカスミカメ</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>〔成虫〕                      【カスミカメムシ類による斑点米（黒蝕米）】</p>	<p>代表的なカスミカメムシ類です。</p> <p>しいな粒や尻黒米、黒蝕米<small>（こくしょくまい）</small>をつくります。</p> <p>口吻<small>（こうぶん）</small>（カメムシの口のこと）が弱く<small>（よわ）</small>粉の上からは吸汁できないため、粉の縫合部から加害します。</p> <p>出穂直後に加害するとしいな粒になり、乳熟期、糊熟期に加害すると尻黒米になります。その後は割れ粉があると加害し、黒蝕米<small>（こくしょくまい）</small>になります。</p>
<p style="text-align: center;"><b>ホソハリカメムシ</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>〔成虫〕                      【大型の斑点米カメムシ類による斑点米（標準的な斑点米）】</p>	<p>代表的な大型の斑点米カメムシ類です。</p> <p>標準的な斑点米をつくります。</p> <p>口吻<small>（こうぶん）</small>が強いので、粉のどこからでも加害します。</p> <p>カスミカメムシ類と異なり、加害時期は長く、収穫間際まで加害することがあります。</p>